

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201716		
法人名	医療法人社団 秀慈会		
事業所名	グループホーム 桃源の丘(1階)		
所在地	静岡県静岡市駿河区国吉田6-6-6		
自己評価作成日	令和3年11月28日	評価結果市町村受理日	令和5年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2294201716-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前年より継続し、寄り添う介護をテーマにして施設側の都合に合わせるのではなく、各利用者様の個別ケアを考えて対応しております。ご自宅で生活しているような雰囲気でも利用者様はもちろん職員も笑顔の多い施設を目指しております。医療法人 秀慈会のグループ事業所として医療面のバックアップもあり、認知症対応のできる職員も多く配置しておりご家族様も安心していただける環境だと思います。近年のコロナ禍にて、外出や家族と会える機会も減っておりますが、利用者様が寂しい思いをしないよう施設内で行える行事やレクリエーションの充実することで対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院を母体として、グループホームの他に看護小規模多機能型居宅介護、介護老人保健施設、障害福祉サービス事業所など、多様な医療、福祉の事業所が在り、四月に着任の管理者も法人内の転属です。グループホーム勤務が初めてだからこそ、新しい視点をもつことができたり、不十分な点を感じ取ることができるようで、「利用者の病状と医療的ケアに着目、職員が各自の病気を理解することで日頃のケアに活かそう」との考えを以て、病気への情報整備を進めています。この取組みから利用者の状態把握がリスク回避につながり、また職員の知識や技術の研鑽となって、事業所のなかが活性化することも併せて期待されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	秀慈会の家訓R3年より新しくなっています。理念と家訓に基づき新たに桃源の丘の方針、方向性を具現化し、皆で共有し、実践につなげていきます。	理念は事務所、フロアの目に入る場所に掲示されております。優先順位もついていることから、困った事や迷うことがあれば、理念に照らして検討でき、職員のバイブルとなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍も引き続き油断ならないため、利用者様が他者との交流の場が減ってしまっていますが、周辺を散歩したときに近所の方や小学生たちに挨拶したりする程度です。今後の情勢も踏まえて交流を増やしていきます。	ご縁を繋いできた小学校ともコロナ禍の影響で疎遠となり、地域とのふれあいは散歩での挨拶に留まっています。ただ、「干し柿つくったよ〜」「野菜が沢山採れたから食べて」と隣接事業所からは声がかかり、疑似隣近所となっていることは幸です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍もあり、地域交流があまりできていない現状です。運営推進会議も書面での報告のみとなっています。今後は、情勢をみて地域貢献に協力できるよう努力していきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年に続き、今年度もコロナ禍のため、運営推進会議が書面での報告のみとなり、直接意見をいただける機会が少なくなり残念ですが、事務所内で意見を出し合いサービス向上に繋げております。	運営推進会議は中止が続いています。中止の案内と事業所の通信を家族、地域包括支援センター、薬局、自治会長、市役所へ届けることで、運営推進会議の代替としている状況にあります。	運営推進会議を隔月開催することは条例で定められていることです。外部者を入れず所内開催として、その議事録をメンバーに届け、更にはそこから意見を収受するという「書面開催」と成ることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点を問い合わせる時や運営推進会議の資料をFAXにて送付しております。今年度は4月にコロナクラスターが発生した時に問い合わせをしアドバイスやサポートしていただきました。	地域包括支援センターからは半年に1度程空室の問い合わせがあり、気にかけてもらっています。また本年度はコロナのクラスター対応に市役所の支えがあって無事乗り越えることができ、大変感謝しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度も静岡県の身体拘束0宣言をしており、身体拘束0に近づけるよう日々努力しております。緊急ややむをえない拘束については家族に説明し、同意いただいております。	身体拘束ゼロ委員会を3ヶ月に1回開催することで、カンファレンスを超えて個別の予防と対策につなげることが出来ており、やむを得ず対応にあたる場合には家族への説明と了解もあります。また年2回の研修も欠かさず実施しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段より虐待についてはスタッフ全員で気をつけています。身体のみでなく、言葉の虐待、性的虐待、ネグレクト、スピーチロックなどないように注意を払っております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の親族や身元引受人様への定期的連絡をおこなっている。物品の補充や面会も必要に応じておこなっています。遠方の方、仕事の忙しい方、家族の事情も把握しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり丁寧に説明して不安や疑問点やわからないことを尋ね、十分に理解していただくように努めています。不明な点があれば、いつでも管理者が窓口になり対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のモニタリングや随時カンファレンスを行い、変更点や問題点、家族からの意見があれば職員で共有しております。	管理者の交替があったことについては、現管理者は全家族に電話を入れており、また現在に至っては面会などで概ね顔を合わせることもできています。特に要望はあがっていませんが、遠慮なく言ってもらえるよう、会話をもつよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば、その都度、話を聞く管理者や役職者も職員の状況を気にして話しかけるよう対応しております。相談しやすい関係雰囲気作りにも努めています。	コロナ禍の影響もあり、全体での会議はおこなっていません。ただし、レクリエーションや入浴などの委員会活動は小人数で集まれる為、活発な意見交換に至っていて、配薬や排泄のチェックなどの改良に実っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価、ヒアリングを実施している。各自の思い、考え方を尊重し、感謝の思いを伝え、より一層やりがいや向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のキャリアパス研修の参加、事業所内の勉強会を行い、他部署との連携屋やスキルアップに繋げている。今年度はコロナ禍のため外部の研修には参加しにくい状況でしたが、今後は積極的に参加していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。同業他者やケアマネ、認定調査員、福祉用具の方たちと交流をはかり、情報交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た情報をスタッフ全員で共有する。安心して不安なく生活していただけるよう環境作り、居室や座席など考慮してじっくりと本人との信頼関係作りをおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の事情、不安、要望を聞いておく、各利用者様に担当スタッフがついており、日常の変化、健康状態なども家族に連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況において優先順位を考えた対応をしている。 今までの生活歴や環境を確認したうえ、施設で対応可能なものを実現出来るよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であり、尊厳を大事にし、必要に応じて、職員が手伝う。出来る事は継続しておこなっていただき、生きがいを持って生活していただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため面会の機会が大幅に減りましたが、繋がりを閉ざさぬよう家族への報告、連絡、相談をおこない、利用者様にも家族の話をして安心して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、面会、外出、外泊等は少なくなったが、今後情勢をみて機会を増やせるような努力をする。	面会には「時間は10分以内」などと制限や条件がありますが、家族とは会うことができおり、専門医の通院も家族がおこなっています。お漬物が大好きな利用者には家族から届いたものを食卓に職員が用意しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの座席配置を考え職員が間に入り、利用者様同士の架け橋となり、孤立せずに仲良く会話されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の病院や施設に移った場合や外部に入院した場合も、電話連絡や面会、お見舞いをし、相談も受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のアセスメント時に本人の思いを伺い、それ以降もカンファレンスを通したり、日々の生活の様子を観察し、随時思い伺い検討している。	アセスメントは最初に作成したものをベースとしており、再作成はしていません。散歩や入浴などマンツーマンでの場면을意向把握の機会としています。また食後まったりと過ごす時間帯は、利用者と職員の会話に花が咲く機会として貴重です。	利用者の意向は口伝えで記録が薄いため、「思いを掴むこと」を大切にしている意識づけとしてもノートなどがあることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い時からの習慣や、自宅に近い環境作りに配慮し、対応している。本人や家族からの聞き取りを大事にして情報収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由に安全に1日を過ごせるように職員がゆったりとした環境を作り、その中で心身状態の早期発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のモニタリングの実施。担当者を中心に本人、家族、主治医、理学療法士、看護師、薬剤師の意見も取り入れ、チーム全体で意見を出し取り組んでいる。	法改正で介護支援専門員と計画作成担当者を兼務する1名で介護計画書を統括してよいとなり、当事業所もそのように配置を変更していません。医師も理学療法士も法人内の連携が厚く、随時助言をもらえるとともにサービス担当者会議にも意見をくださっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の看護記録やヒヤリハット、インシデントなど多く取り上げ、職員間で情報共有しながら気付かなかったことを発見し、意識向上に努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の状況に応じ法人内の法人内の病院に付き添いや送迎で対応している。今年度も、コロナワクチン、インフルエンザ予防接種も法人内での対応。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺を散歩している。食事レクなどで必要な食材を近所のスーパーに買い物に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療にて系列の病院より医師が診察に来ております。緊急時も主治医との連携がとれるようになっております。外部への受診は家族にお願いしています。今年度より訪問歯科診療を始め、施設で歯科受診と治療ができるようになった。	全ての利用者が毎月2回訪問診療を受けています。医師は専任者で利用者も馴染みとなりやすく、サッカー観戦など同じ趣味には一層親しんで話が弾んでいます。法人内から訪問看護師も週1回来所があり、診療にも立ち会っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の定期訪問看護にて状況を伝え、アドバイスをいただいております。緊急時にも訪問看護への電話連絡や隣接している、看多機の看護師に連絡して、対応していただけるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍での制限はあるが、入院先への面会やお見舞い、家族への連絡で状況を把握する。医療機関や御家族との情報共有に努める。退院後の受け入れや情報共有がスムーズに行えるように医療機関の相談員と連絡をとる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族の考えや希望を伺ったうえで、法人内でもできることをお伝えする。系列の病院に入院できることをお伝えする。看取の場合は、訪問看護、主治医との連携をとり、チームで支援に取り組む。	契約時には重度化や看取りについても家族に説明をおこなっています。幾つもの事業所をもつ法人なことから、ケースバイケースの対応が可能であり、家族も事業所も安心な体制にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアル作成し提示してある。初期対応や応急処置に関しては看護師より指導を受け対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での防災訓練を行い、避難の手順、停電時に備え、ランタンや発電機、カセットコンロを用意し、災害に備え、飲料水、非常食を備蓄する。	春先に管理者が交替したことやクラスターなどの難儀が続いたこともあって、現時点で法定訓練の実施はありません。年度末までに2回おこなえるよう準備中です。発電機は隣の事業所と共有ですが、備蓄はそれぞれ独立させています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人や御家族の思いを尊重し、どうすれば、安心安全に過ごして頂けるか考える。居室には御本人や御家族が希望するものを置いてもらっている。	「おっとり、穏やかな」職員が多く、丁寧な対応に定評があります。ただ、グループ内には何十人ものおむつ交換が業務で、「急いで」が癖になっている人もいるため、そういった人が転属していた場合には理解してもらおうようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの声かけにより、一方的に介護や介助を行うのではなく、ご本人に選択の機会をあたえている。家訓の通り、利用者様第一に行動する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアでの座席の配置や個々のADLに合わせた活動など、希望に沿うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、散髪や入浴、排泄後の衣類の身だしなみを整える。外出時の服装にも配慮している。再開した、月に一度のビューティーヘルパーで散髪してもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度、食事レクやおやつレクを取り入れ調理や盛り付けに利用者様が参加している。普段の食事も暖かいものは温かく、冷たいものは冷やして提供し美味しく食べていただけるよう工夫している。	献立は業者搬入で、湯煎のものが提供されていますが、月1回程度は食事レクが実施されています。お正月のおせちといった行事食もあり、また事業所でも並べる前に「うなぎが届きました～」と利用者に披露して食事を楽しめるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録をしている。必要に応じて食事形態合わせた食事や水分トロミをつけて提供している。食事介助する場合もあるが、基本的に自立出来るよう、食器やスプーンなどはご本人合ったものを使用して召し上がっていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシング後に磨き残しを確認する。義歯は洗浄し施設で管理する。自分で口腔ケアできる方は自分で行っていただき、必要に応じて介助する。また、訪問歯科を導入し、定期的に受診と治療を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録している。定時誘導ではなく、一人ひとりのペースに合わせ可能な限りトイレで排泄できるように、取り組んでいる。尊厳、自尊心に配慮した対応を心がけている。	平均介護度3、車いす利用が8名なものの立位が保てる人ばかりです。きれいに拭いているか、シャツがしっかりズボンに入っているかといった補足的なケアは必要ですが、排泄介助そのものが必要な人は1名のみです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを理解するよう心がけている。水分補給や運動(体操、散歩)をしたり、乳製品や乳飲料を飲んで頂くなど、個別に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否されれば、無理に行わず、一人ひとりの希望を優先する。脱衣所、浴室、入浴剤、ラジオ等の工夫しながら、リラックスした気持ちで入浴頂いている。	入浴は週2回を清潔の目安としていますが、2名ほど嫌がる利用者がいます。機嫌のよさそうな時を見計らって「体重計りに行きましょうか」などと声かけを工夫するほか、職員が自宅から持ち込んだラジオで和やかな入浴タイムとしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を希望されれば、否定せずにゆっくり休んでいただいております。オリンピック、サッカーワールドカップ、紅白など、希望があればとことん観て頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が内服している。薬を理解し日々の状態にも注意して変化があれば、早期発見できるように努めており、訪問診療、訪問看護で診察やアドバイスを頂き、内服の調整を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食料品の検品やビニール袋、洗濯物を畳んでもらったり、生活の中でお手伝い頂けることや季節の飾りつけの作品作りを行っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍のため、機会は減りました。散歩は午後、マンツーマンで出かけた後、坂や畑、学校もあり、気分転換になっています。玄関先で日向ぼっこもしています。	外出企画はなかなか難しく、現状は年2回ほど降りないドライブを実施して、桜の花見などを楽しみました。家族も専門医への通院などで外に連れ出してください、事業所では天気がよければ小学校の運動場の様子を眺めながらの散歩が励行されています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は預かってはしません。小銭程度のお金を所持している方は数人おります。コロナ禍以前、希望ある方は、ミカンやお菓子を車で買いに行ったりしていました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いは、全員が出しています。それら以外でも家族の方から手紙がきたら返信することもあり、職員が手伝ってかいています。必要に応じて電話で話す機会もあり、臨機応変に対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開け閉めで、日光調整、エアコン調整などで、室温もコントロールしている。不快にならないよう清掃に努め、天気の良い日は窓や玄関を開けて換気する。	コロナ禍の環境設定として、換気は随時のほか、午前、夜間と1日2回しっかり実施するとともに、オゾン発生器を各ユニット2台ずつ置いています。また散歩で摘んだ野の花をフロアに飾るなど、少しでも季節を感じてもらおう工夫もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配は置工夫している。気の合った利用者様は隣に座ったり、コミュニケーションが苦手な方でも、共有スペースにて楽しめるような居場所になるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用したものの持ち込み、ダンスや仏壇、ぬいぐるみなど配置。家族やペットの写真やレクで作ったカレンダーや飾りなどを居室に展示している。	車いすを使うようになった利用者のうち、7名が自走で居室を出入りするため、車いすの操作がしやすいように動線の見直しと家具の移動を適宜おこなっています。どのような視点で変更となったかについては家族にも伝え、連携を図っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内と居室はほぼバリアフリーの環境のため、つまづきにくい環境で自立して歩行できる。ベッドも低床ベッドを用意し、自由かつ安全が実現できるよう取り組んでいる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201716		
法人名	医療法人社団 秀慈会		
事業所名	グループホーム 桃源の丘(2階)		
所在地	静岡県静岡市駿河区国吉田6-6-6		
自己評価作成日	令和3年11月28日	評価結果市町村受理日	令和5年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2294201716-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前年より継続し、寄り添う介護をテーマにして施設側の都合に合わせるのではなく、各利用者様の個別ケアを考えて対応しております。ご自宅で生活しているような雰囲気ではもちろん職員も笑顔の多い施設を目指しております。医療法人 秀慈会のグループ事業所として医療面のバックアップもあり、認知症対応のできる職員も多く配置しておりご家族様も安心していただける環境だと思います。近年のコロナ禍にて、外出や家族と会える機会も減っておりますが、利用者様が寂しい思いをしないよう施設内で行える行事やレクリエーションの充実することで対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院を母体として、グループホームの他に看護小規模多機能型居宅介護、介護老人保健施設、障害福祉サービス事業所など、多様な医療、福祉の事業所が在り、四月に着任の管理者も法人内の転属です。グループホーム勤務が初めてだからこそ、新しい視点をもつことができたり、不十分な点を感じ取ることができるようで、「利用者の病状と医療的ケアに着目、職員が各自の病気を理解することで日頃のケアに活かそう」との考えを以て、病気への情報整備を進めています。この取組みから利用者の状態把握がリスク回避につながり、また職員の知識や技術の研鑽となって、事業所のなかが活性化することも併せて期待されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	秀慈会の家訓R3年より新しくなっています。理念と家訓に基づき新たに桃源の丘の方針、方向性を具現化し、皆で共有し、実践につなげていきます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍も引き続き油断ならないため、利用者様が他者との交流の場が減ってしまっていますが、周辺を散歩したときに近所の方や小学生たちに挨拶したりする程度です。今後の情勢も踏まえて交流を増やしていきます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍もあり、地域交流があまりできていない現状です。運営推進会議も書面での報告のみとなっています。今後は、情勢をみて地域貢献に協力できるよう努力していきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年に続き、今年度もコロナ禍のため、運営推進会議が書面での報告のみとなり、直接意見をいただける機会が少なくなり残念ですが、事務所内で意見を出し合いサービス向上に繋げております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点を問い合わせる時や運営推進会議の資料をFAXにて送付しております。今年度は4月にコロナクラスターが発生した時に問い合わせをしアドバイスやサポートしていただきました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度も静岡県の身体拘束0宣言をしており、身体拘束0に近づけるよう日々努力しております。緊急ややむをえない拘束については家族に説明し、同意いただいております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段より虐待についてはスタッフ全員で気をつけています。身体のみでなく、言葉の虐待、性的虐待、ネグレクト、スピーチロックなどないように注意を払っております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の親族や身元引受人様への定期的連絡をおこなっている。物品の補充や面会も必要に応じておこなっています。遠方の方、仕事の忙しい方、家族の事情も把握しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり丁寧に説明して不安や疑問点やわからないことを尋ね、十分に理解していただくように努めています。不明な点があれば、いつでも管理者が窓口になり対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のモニタリングや随時カンファレンスを行い、変更点や問題点、家族からの意見があれば職員で共有しております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば、その都度、話を聞く管理者や役職者も職員の状況を気にして話しかけるよう対応しております。相談しやすい関係雰囲気作りに努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価、ヒアリングを実施している。各自の思い、考え方を尊重し、感謝の思いを伝え、より一層やりがいや向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のキャリアパス研修の参加、事業所内の勉強会を行い、他部署との連携屋やスキルアップに繋げている。今年度はコロナ禍のため外部の研修には参加しにくい状況でしたが、今後は積極的に参加していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。同業他者やケアマネ、認定調査員、福祉用具の方たちと交流をはかり、情報交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た情報をスタッフ全員で共有する。安心して不安なく生活していただけるよう環境作り、居室や座席など考慮してじっくりと本人との信頼関係作りをおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の事情、不安、要望を聞いておく、各利用者様に担当スタッフがついており、日常の変化、健康状態なども家族に連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況において優先順位を考えた対応をしている。 今までの生活歴や環境を確認したうえ、施設で対応可能なものを実現出来るよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であり、尊厳を大事にし、必要に応じて、職員が手伝う。出来る事は継続しておこなっていただき、生きがいを持って生活していただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため面会の機会が大幅に減りましたが、繋がりを閉ざさぬよう家族への報告、連絡、相談をおこない、利用者様にも家族の話をして安心して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、面会、外出、外泊等は少なくなったが、今後情勢をみて機会を増やせるような努力をする。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの座席配置を考え職員が間に入り、利用者様同士の架け橋となり、孤立せずに仲良く会話されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の病院や施設に移った場合や外部に入院した場合も、電話連絡や面会、お見舞いをし、相談も受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のアセスメント時に本人の思いを伺い、それ以降もカンファレンスを通したり、日々の生活の様子を観察し、随時思い伺い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い時からの習慣や、自宅に近い環境作りに配慮し、対応している。本人や家族からの聞き取りを大事にして情報収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由に安全に1日を過ごせるように職員がゆったりとした環境を作り、その中で心身状態の早期発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のモニタリングの実施。担当者を中心に本人、家族、主治医、理学療法士、看護師、薬剤師の意見も取り入れ、チーム全体で意見を出し取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の看護記録やヒヤリハット、インシデントなど多く取り上げ、職員間で情報共有しながら気付かなかったことを発見し、意識向上に努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の状況に応じ法人内の法人内の病院に付き添いや送迎で対応している。今年度も、コロナワクチン、インフルエンザ予防接種も法人内での対応。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺を散歩している。食事レクなどで必要な食材を近所のスーパーに買い物に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療にて系列の病院より医師が診察に来ております。緊急時も主治医との連携がとれるようになっております。外部への受診は家族にお願いしています。今年度より訪問歯科診療を始め、施設で歯科受診と治療ができるようになった。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の定期訪問看護にて状況を伝え、アドバイスをいただいております。緊急時にも訪問看護への電話連絡や隣接している、看多機の看護師に連絡して、対応していただけるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍での制限はあるが、入院先への面会やお見舞い、家族への連絡で状況を把握する。医療機関や御家族との情報共有に努める。退院後の受け入れや情報共有がスムーズに行えるように医療機関の相談員と連絡をとる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族の考えや希望を伺ったうえで、法人内ですることをお伝えする。系列の病院に入院できることをお伝えする。看取の場合は、訪問看護、主治医との連携をとり、チームで支援に取り組む。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアル作成し提示してある。初期対応や応急処置に関しては看護師より指導を受け対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での防災訓練を行い、避難の手順、停電時に備え、ランタンや発電機、カセットコンロを用意し、災害に備え、飲料水、非常食を備蓄する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人や御家族の思いを尊重し、どうすれば、安心安全に過ごして頂けるか考える。居室には御本人や御家族が希望するものをおいてもらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの声かけにより、一方的に介護や介助を行うのではなく、ご本人に選択の機会をあたえている。家訓の通り、利用者様第一に行動する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアでの座席の配置や個々のADLに合わせた活動など、希望に沿うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、散髪や入浴、排泄後の衣類の身だしなみを整える。外出時の服装にも配慮している。再開した、月に一度のビューティーヘルパーで散髪してもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度、食事レクやおやつレクを取り入れ調理や盛り付けに利用者様が参加している。普段の食事でも暖かいものは温かく、冷たいものは冷やして提供し美味しく食べていただけるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録をしている。必要に応じて食事形態合わせた食事や水分トロミをつけて提供している。食事介助する場合もあるが、基本的に自立出来るよう、食器やスプーンなどはご本人合ったものを使用して召し上がっていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシング後に磨き残しを確認する。義歯は洗浄し施設で管理する。自分で口腔ケアできる方は自分で行っていただき、必要に応じて介助する。また、訪問歯科を導入し、定期的に受診と治療を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録している。定時誘導ではなく、一人ひとりのペースに合わせ可能な限りトイレで排泄できるように、取り組んでいる。尊厳、自尊心に配慮した対応を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを理解するよう心がけている。水分補給や運動(体操、散歩)をしたり、乳製品や乳飲料を飲んで頂くなど、個別に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴誘いを拒否されれば、無理に行わず、一人ひとりの希望を優先する。脱衣所、浴室、入浴剤、ラジオ等の工夫しながら、リラックスした気持ちで入浴頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を希望されれば、否定せずにゆっくり休んでいただいております。オリンピック、サッカーワールドカップ、紅白など、希望があればとことん観て頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が内服している。薬を理解し日々の状態にも注意して変化があれば、早期発見できるように努めており、訪問診療、訪問看護で診察やアドバイスを頂き、内服の調整を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食料品の検品やビニール袋、洗濯物を畳んでもらったり、生活の中でお手伝い頂けることや季節の飾りつけの作品作りを行っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍のため、機会は減りました。散歩は午後、マンツーマンで出かけたたり、坂や畑、学校もあり、気分転換になっています。玄関先で日向ぼっこもしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は預かってはしません。小銭程度のお金を所持している方は数人おります。コロナ禍以前、希望ある方は、ミカンやお菓子を車で買いに行ったりしていました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いは、全員が出しています。それら以外でも家族の方から手紙がきたら返信することもあり、職員が手伝ってかいています。必要に応じて電話で話す機会もあり、臨機応変に対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開け閉めで、日光調整、エアコン調整などで、室温もコントロールしている。不快にならないよう清掃に努め、天気の良い日は窓や玄関を開けて換気する。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配は置工夫している。気の合った利用者様は隣に座ったり、コミュニケーションが苦手な方でも、共有スペースにて楽しめるような居場所になるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用したものの持ち込み、ダンスや仏壇、ぬいぐるみなど配置。家族やペットの写真やレクで作ったカレンダーや飾りなどを居室に展示している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内と居室はほぼバリアフリーの環境のため、つまづきにくい環境で自立して歩行できる。ベッドも低床ベッドを用意し、自由かつ安全が実現できるよう取り組んでいる。		